

平成26年度 教育事業

第5回 チャレンジカヌーツーリング

～総勢100艇を超える日本最大級のカヌーイベント～

清流「肱川」約10kmを河口まで、147艇のカヌーで大洲の自然を楽しみながら下ることができました。ゴール後には、これからも美しい肱川であり続けて欲しいという願いを込め、河口のゴミ拾いに汗を流しました。

1 事業実施までの経緯

国立大洲青少年交流の家では、昭和51年度より肱川を利用してのカヌー研修を導入し、多くの利用者にカヌー体験の機会を提供してきた。通常、カヌー研修は、肱川中流の川幅20メートル程度で流れも緩やかな200メートル程度の場所を、カヌー研修場に設定し実施している。希望に応じて上流からのカヌーツーリングも研修支援プログラムや事業として提供してきたが、安全管理の観点から対象が高校生以上であり、平水で6時間のカヌー実技研修と講義の受講を義務づけていることから、なかなか気軽に体験することが難しいのが現状である。そこで、実施場所や実施時期等を考慮し、もっと気軽に多くの方にカヌー体験の楽しさやカヌーをとおして自然とふれあうことのすばらしさを身近に感じていただく場と機会を設定した。

本事業では、小学5年生の子供たちからツーリングできるようにするため、より安全性の高い、肱川下流域をツーリングの場所と設定した。また、事前にカヌー経験の有無を確認し、未経験者にはより安心して事業に参加していただくために、事前の実技研修に参加していただくよう計画した。さらに、2017年に行われるえひめ国体において、大洲市がカヌー競技の会場となることから、地域全体でカヌーを盛り上げていくために、大洲市や大洲市教育委員会、大洲市カヌー協会、国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所にもご協力いただき、実行委員会を設けて事業を企画運営することとした。

本事業は4年前から子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業として実施し、今年度は教育事業として5回目の実施となった。

2 ねらい

10kmのカヌーツーリングを完漕することで、達成感や自然のすばらしさ、カヌーを漕艇する楽しさを感じるとともに、地域の活性化や清流「肱川」の美化を図る。また、カヌーによる体験活動の普及を図る。

3 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

4 共催 大洲市・大洲市教育委員会・大洲市カヌー協会

5 後援 国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所・愛媛県教育委員会
(株)愛媛新聞社・(株)あいテレビ・(株)FM愛媛

6 協力 エフエムエス株式会社大洲店・介護老人保健施設長浜ひまわり・大和公民館

7 期日 平成26年9月7日(日)

8 場所 愛媛県大洲市肱川(スタート…八多喜祇園大橋 ゴール…肱川河口 約10km)

9 対 象 小学5・6年生親子（25組）・中高生（25名）・一般（25名）

10 参加人数 113名（募集人数100名）

11 参加費 無料

12 講 師 国立大洲青少年交流の家職員
国立大洲青少年交流の家研修指導員
大洲市カヌー協会会員

13 日 程

8:45	10:15	10:45	13:15	13:45	14:05
受付	開会行事	肱川河口までツーリング (適宜トイレ休憩)	清掃活動	閉会行事	解散

14 活動内容

参加者は、ゴール地点近くにある長浜環境緑地公園にて受付を行い、シャトルバスにてスタート地点である八多喜祇園大橋上流の開会式会場へ移動した。開会式までに、各自ヘルメットやライフジャケット、カヌー、パドルを確保しガムテープに自分の名前を記名しながらスタートの準備を行った。今年度は、小学5・6年生の親子の参加が多く、親子で話しながら、楽しみの笑顔でスタートを待つ様子が見られた。



開会式には、大洲市長・清水裕氏、国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所長・清家基哉氏、大洲市カヌー協会理事長・島村弘幸氏にごあいさついただき、最後に主催者である国立大洲青少年交流の家所長・松岡孝次があいさつを述べた。また、愛媛県知事・中村時広氏より参加者へ向けていただいたメッセージも紹介した。メッセージには、自分のペースでゴールを目指しながら、カヌーの楽しさや清流「肱川」のすばらしさを存分に味わっていただき、思い出に残る1日となるようにしてもらいたいという知事の願いも込められていた。その後、各班毎にリーダーやスタッフの紹介を行い、リーダーから注意事項等の説明があった。



開会式後、太鼓の音を合図に147艇のカヌーが一斉にスタートした。小学5・6年生の親子の班を先頭に、中高生・一般の班、来賓の班



の順でツーリングを進めた。参加者はそれぞれ自分のペースでカヌーを漕艇し、緩やかな流れの肱川水面から眺める景色を楽しんだ。また、川岸からの100艇を超えるカヌーが川幅いっぱいに広がり下っていく様子は壮観であった。



参加者の中にはなかなか真っ直ぐ進むことができず、苦勞している参加者もいたが、大洲市カヌー協会スタッフや当所スタッフの根気強い指導、また、家族や友人、肱川流域の地域の方々に各橋の上や川岸から声援を送ってもらうことで、精一杯パドルを漕ぐことができ、少しずつパドリングの技術も向上していった。

大和橋では、協力団体より飲み物とバナナをいただき、エネルギーを補給した。休憩後には、長浜大橋（稼働する開閉橋としては日本最古）へ向けて一斉にスタートした。参加者それぞれが、最後の力をふりしぼって、我こそは一番にとゴールを目指しながら約10kmの距離を漕ぎきった。カヌーの片付けが終わった参加者からゴール地点周辺の海岸清掃活動を行った。海岸には、漂流ごみが多く、燃やすごみと燃やさないごみに分別しながら回収した。多くの参加者が一斉に清掃活動を行ったおかげで、少ない時間ではあったものの、以前とは見違えるようにきれいになり、参加者も気持ちの良い表情で清掃活動を終えることができた。



閉会式では、小学5・6年生親子の部に参加された、香川県高松市の原田さんに参加者を代表して完漕証を手渡した。他の参加者も閉会式後に各班のリーダーから完漕証を受け取った。それぞれの班で参加者相互に称賛の拍手が起こった。参加者は大変疲れていたものの大変満足した表情を見せており、無事に事業を終えることができた。



15 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

*満足：79.5%

*やや満足：20.5%

*やや不満：0.0%

*不満：0.0%

- 昨年も参加させていただき、今年も楽しみにしていました。大洲の自然を満喫できることが最高のプレゼントです。お世話になりました。
- 素晴らしい体験ができました。これからも続いて開催されることを願っています。
- 大洲ならではの活動をもっともっと拡大したいですね。いろいろなコースがあるとさらに楽しめると思います。

- 肱川の美しい風景を見てのツーリングとても楽しかったです。肱川は大洲市の宝です。
- 思っていたよりゆったりと、景色を楽しみながらツーリングをすることができました。このような企画に無料で参加できるのはありがたい限りです。これからもファミリーイベント楽しみにしております。スタッフの方々のご苦労様でした。

16 成果と課題

実施にあたり、当所と大洲市、国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所、大洲市教育委員会、大洲市カヌー協会にて実行委員会を開き計画を立てた。その際潮の満ち引きによる日時設定、時間管理、救助艇の配備、ヘルメット、ライフジャケットの着用、休憩場所の設置（栄養補給）、コース周辺の施設や漁協等に協力を依頼し、万全な安全体制で実施することができた。また、当日は天候にも恵まれ穏やかな気象条件の下で実施することができた。

今回は潮の関係で開催が9月初めの日曜となったため、学校行事等で中高生の参加が少なめとなったが、小学5・6年生の親子の参加がとても多い結果となった。自然を活動の場としているため、潮の干満条件を避けることができないが、できる限り小中高の運動会や体育祭実施日を避け、今後も多くの子どもたちが参加できるように配慮していく必要がある。

肱川を使ったカヌーツーリングを行うことで、カヌー活動を通じた自然体験活動の推進と、今後も継続して実施することで広く一般に肱川でのカヌー活動に対する知名度を向上することができると考える。また、今回協力として大洲市や国土交通省、愛媛県、大洲市カヌー協会、肱川漁業共同組合等と連携したが、今後も他団体と連携することで大洲のイベントとしての認知度向上と、2017年に開催される愛媛国体のカヌー競技人口育成に向けた活動としてもPRしていくことができる。